

平成17年以降の業務用厨房施設等における一酸化炭素中毒事故(一覧表)

発生日	場所	人身被害		事故概要	機器分類	参考情報		事業形態
		死亡	中毒			製造(輸入)者	型式	
2009年7月5日	長野	0	2	庭園内のフードコートの厨房において、パン焼き用オーブンを使用していた調理師2名が一酸化炭素中毒(軽症)となり、入院した。原因は、換気扇を回さずにパン焼き用オーブンを使用したことから、排気が室内に滞留したためと推定されるが、詳細は現在調査中。	業務用オーブン	北沢産業(株)	KSG-6-12-2T-8 (製造年不明)	LP
2009年6月22日	宮崎	0	2	保育園の調理室において、ガスこんろを使用し調理をしていた調理師2名が一酸化炭素中毒(軽症)となり、病院へ搬送された。原因は、密閉した調理室内でガスこんろを使用したことから、給排気が不十分になり不完全燃焼を起こし、一酸化炭素中毒に至ったものと推定されるが、詳細は現在調査中。	業務用こんろ	不明	不明	LP
2009年6月12日	岐阜	0	3	菓子店の厨房において、調理をしていた従業員3名が一酸化炭素中毒(軽症)となり、入院した事故が発生した。原因は、厨房内の換気扇3基のうち2基しか作動していないことから、排気が室内に滞留したためと推定されるが、詳細は現在調査中。	業務用オーブン	(株)ワールド精機	FG32Y-D-PP (1997年8月製) FG-43YW-D-PPK (2006年9月製)	LP
2009年4月15日	愛知	0	3	需要家から「会社食堂の厨房の洗浄室内で食器洗浄機を使用していたところ、同室内にいた従業員3名が気分が悪くなり病院へ搬送され一酸化炭素中毒と診断された。」との連絡を受け、ガス事業者が確認したところ、当該洗浄室内に設置されたガス機器は当該機器のみであり、事故発生当時、機器上部にある換気フード設備は稼働していたことを確認した。さらに事故直後、機器メーカーが食器洗浄機の排気口付近で測定した一酸化炭素濃度は0.01%程度であったことが判明している。なお、当該洗浄室内に一酸化炭素警報機は設置されていなかった。詳細調査中。	業務用食器洗浄機	中西製作所	WGD-X23G4AT (2006年2月製)	一般
2009年3月3日	兵庫	0	1	保育所において、需要家から「湯沸器の調子がおかしい」との連絡を受け、ガス事業者の販売協力店が3月4日に確認したところ、当該機器から高濃度の一酸化炭素が排出すること、当該機器を操作していた職員1名が気分が悪くなり病院に搬送されていたことを確認した。ガス事業者が調査したところ、当該機器の給気口の一部分が埃により目詰まりし、点火・失火を繰り返す状態となっており、また搬送された職員は当該機器操作時に換気扇を使用していなかったことが判明している。詳細調査中。	瞬間湯沸器	(株)ハーマン (現(株)ハーマンプロ) (大阪ガス(株)販売分)	YR526 (品番:033-0056) (1994年12月製)	一般
2009年1月30日	福島	0	4	葬祭場において、食器等を洗っていた従業員4名が一酸化炭素中毒(軽症)となり、入院した。原因は、瞬間湯沸器が埃詰まり等により給気不良となり高濃度の一酸化炭素を排気していたこと、排気筒の設置方法の不備により適切な換気が行われなかったことにより、一酸化炭素を含む排気が室内に滞留したためと推定される。	瞬間湯沸器(FE式)	TOTO(株)	RGH10EME (1994年9月)	LP
2009年1月26日	鹿児島	0	18	高等学校の集団給食室において、複数のガス燃焼機器を使用して調理実習中に、生徒17名、教員1名の計18名が一酸化炭素中毒となり病院に搬送された。原因は、窓を閉め切り、給気が不十分な状態で換気扇を使用したことにより室内が負圧状態となり、一酸化炭素を含むボイラーの排気が室内に漏れたことによるものと推定される。	貯湯式湯沸器(ボイラー)	(株)巴商会	TGN-Y-1002 (1984年4月製)	LP

発生日	場所	人身被害		事故概要	機器分類	参考情報		事業形態
		死亡	中毒			製造(輸入)者	型式	
2009年1月24日	東京	0	1	洋菓子店において、食器洗浄機に湯を供給するFE式瞬間湯沸かし器を使用していたところ、従業員1名が帰宅後も気分が悪いとして病院に搬送され、一酸化炭素中毒の可能性が高いと診断された。原因は、瞬間湯沸かし器が埃詰まり等により高濃度の一酸化炭素を排気していたこと、換気ダクトを稼働させずに瞬間湯沸かし器を使用したため排気が厨房内にあふれたことによるものと推定される。また、CO警報器も期限切れであったことが判明している。	瞬間湯沸し器	(株)ノーリツ	GQ-2421WZ-HP-2 (2003年4月製)	一般
2009年1月16日	東京	0	1	ラーメン店において、めんゆで器使用中、CO中毒となった。原因は、給気口をふさいだ状態で長時間使用したことにより、室内が酸欠状態となり、当該燃焼器が不完全燃焼を起こしたものと推定されるが、詳細調査中。	業務用めんゆで器	不明	不明	一般
2009年1月15日	東京	0	2	ラーメン店において、営業中に2名の従業員の気分が悪くなり病院へ搬送され、一酸化炭素中毒と診断された。厨房にはめんゆで器、こんろがあり、いずれかの機器が何らかの原因で不完全燃焼となり一酸化炭素が発生したものと推定される。	業務用めんゆで器、業務用こんろ	不明	不明	一般
2008年10月24日	佐賀	0	6	結婚式場の配膳室において、食器洗浄機使用中に従業員6名が気分が悪くなり病院へ搬送された。ガス事業者が当該機器の燃焼試験を行った結果、当該機器の排気口において0.125%超の一酸化炭素濃度を測定した。また、従業員は午前10時頃から当該機器を使用していたにも関わらず換気扇を使用しておらず、さらにスモークテストの結果、排気フードはほとんど排気を吸引しない状態であることが判明している。詳細調査中。	業務用食器洗浄機	日本電子機器(株)	GDH-40RF (1993年8月製)	一般
2008年10月11日	千葉	0	1	うどん店において業務用めんゆで器使用中、アルバイト従業員1名が不調を訴え、病院にて軽い一酸化炭素中毒と診断され、入院した。ガス事業者による調査の結果、業務用めんゆで器の1台から高濃度(1.9%超)の一酸化炭素を含む排気ガスが排出されていることが判明している。なお、店員によれば、①事故当日、ゆで麺器排気口前に置いてあった井にすすが付着していた、②事故発生時に換気設備は使用していた、とのこと。詳細調査中。	業務用ゆで麺器	タニコー(株)	TU-90AWN-10(2006年3月製)	一般
2008年10月8日	兵庫	0	5	菓子工場において業務用蒸し器を使用していたところ、従業員5名一酸化炭素中毒になり、病院へ搬送された。当該蒸し器から高濃度(0.125%)の一酸化炭素を含む排気が測定されており、蒸し器が不完全燃焼を起こした事が一因と推定されるが、事故当時の換気設備運転状況も含め、原因調査中。	業務用蒸し器	(株)品川工業所	サンキューボイラー2型(SB-2-702) (1998年製)	一般
2008年9月2日	千葉	1	0	飲食店においてガスレンジ使用中、一酸化炭素中毒となり店長1名が死亡した。原因は、換気設備を作動させずガスレンジを使用したため、一酸化炭素中毒になったものと推定されるが、詳細は現在調査中。	業務用レンジ	タニコー(株)	TGP-120(2口用)	LP
2008年8月22日	石川	0	3	社会福祉施設において、煎り菓子加工機を使用中、3名が一酸化炭素中毒(軽症)となった。原因は、煎り菓子加工機を使用する際、比較的狭い(13.2m ²)室内で換気設備を作動せず使用したため、一酸化炭素中毒に至ったものと推定される。	業務用その他	(有)太陽機械製作所	穀物膨張機1号(3径)	LP
2008年8月14日	神奈川	0	1	パンの製造・販売店でパンオープンを使用していたところ従業員1名が一酸化炭素中毒になり、病院へ搬送された。原因は、換気設備を作動させずにオープンを使用していたため室内に一酸化炭素が充満し、中毒になったものと推定されるが、オープンからも高濃度の一酸化炭素(2.37%)が測定されており、オープンに不備が認められるかどうかも含め、詳細調査中。なお、他の従業員に被害者が倒れているのを発見された時は、CO警報器が鳴動していた。	業務用オープン	Welker	不明	一般

発生日	場所	人身被害		事故概要	機器分類	参考情報		事業形態
		死亡	中毒			製造(輸入)者	型式	
2008年7月31日	和歌山	1	0	通行人より、飲食店内で煙が充満しているとの通報を受け、消防が駆けつけたところ、店内で従業員が倒れているのを発見し、病院に搬送したが、死亡が確認された。原因は、当該従業員が換気扇を動作させない状態でこんろを長時間使用したため、店舗内が酸欠状態となり当該こんろから一酸化炭素が発生しCO中毒に至ったもの。	業務用こんろ	(株)マルゼン (1台は、製造者、型式不明)	MG280B(製造年不明)	LP
2008年7月30日	大阪	0	12	営業中のパン製造・販売店において、従業員及び一般客あわせて12名が一酸化炭素中毒(重症2名、軽症10名)となり、病院へ搬送された。原因は、換気設備を動作させずに複数の燃焼器を使用していたため、店内に一酸化炭素が滞留し中毒となったものと推定される。	①業務用こんろ ②業務用その他(カスタードクリーム製造器) ③業務用オープン	①タニコー(株) ②中井機械工業(株) ③(株)ネクスト	①TO921(2007年1月製) ②VKD-45L(2007年3月製) ③NPSO-1(2007年10月製)	一般
2008年7月3日	東京	0	2	学校給食室で、業務用煮炊釜(回転釜)を使用していたところ、従業員2名が一酸化炭素中毒(疑い)で病院に搬送された。調査の結果、煮炊釜使用時の湯気等が状況により排気フードから一時的に洩れる場合があること、一部の煮炊釜は経年劣化により点火当初のCO濃度が高濃度であることが確認されたことから、一部の煮炊釜から点火当初に高濃度のCOが発生し、一時的に排気フードからCOを含む排気が洩れ、従業員2名の気分が悪くなった可能性が推定される。	業務用煮炊釜	桐山工業(株)	KIG2-30	一般
2008年6月11日	東京	0	2	業務用めんゆで器を使用中、厨房内で調理していた従業員2名が一酸化炭素中毒により病院に搬送された。原因は、業務用めんゆで器の一次空気口の埃詰まりにより一次空気量が不足したことで不完全燃焼を起こしていたこと、また、事故発生当時に排気設備を稼働させていなかったため一酸化炭素が厨房内に充満し、事故に至ったことが判明した。	業務用めんゆで器	(株)三栄コーポレーションリミテッド	NSU6-60	一般
2008年5月2日	東京	0	1	業務用パンオープンを使用中、従業員1名が一酸化炭素中毒により病院に搬送された。原因は、パンオープンのバーナーが埃詰まりにより不完全燃焼を起こしていたこと、さらにパンオープン用の換気設備が故障していたことにより、厨房内にパンオープンの燃焼排ガスが滞留し、軽度の一酸化炭素中毒になったものと推定される。	業務用オープン	WINKLER	C-316-58HVARIANT	一般
2008年4月8日	東京	0	7	洋菓子店店員から「湯沸器付近でガス臭いような気がする」との通報を受け、ガス事業者が確認したところ、店舗従業員7名が一酸化炭素中毒と見られる症状で医師の手当てを受けたことを確認した。調査の結果業務用こんろの排気フードがほとんど排気を吸引しておらず、原因は、コンロ周辺の水蒸気、油脂、粉状の埃が給湯器に吸い込みやすい環境で長期間使用したため、給気フィルター等に埃が堆積し、空気不足により給湯器が不完全燃焼したことによるものと推定される。また、従業員がフィルター清掃等の管理を怠ったこと、立ち消え安全装置が作動した後も継続して使用するなど、従業員の使用状況が不適切であったことも要因と推定される。	瞬間湯沸器	(株)ノーリツ	GQ-2421WZ-HP(1999年3月製)	一般
2008年4月2日	東京	0	7	飲食店従業員から「業務用めんゆで器を使用中に従業員が気分が悪くなり病院に向かった」との通報を受け、ガス事業者が確認したところ、7名が一酸化炭素中毒(軽症。意識あり。)と診断されたことを確認した。消防及び警察立会での調査の結果、当該機器の排気筒先端において高濃度の一酸化炭素が検出され、さらに従業員が換気扇のスイッチを入れ忘れたことにより事故発生まで数時間程度換気扇が使用されていないことが判明した。	業務用めんゆで器	小林熱機工業(株)	GD-2(1990年10月製)	一般

発生日	場所	人身被害		事故概要	機器分類	参考情報		事業形態
		死亡	中毒			製造(輸入)者	型式	
2008年3月27日	神奈川	0	2	消防からガス事業者へ「菓子店従業員が、一酸化炭素中毒によりめまいを起こし、2名を病院へ搬送した。」旨の連絡があり、ガス事業者が確認したところ、厨房において換気設備を稼働させずに業務用オープンを使用し、また、ガス漏れ警報機のコンセントが抜けていたことを確認した。調査の結果、機器には異常が認められておらず、原因は、換気設備を作動させずに機器を使用したことにより排気ガスが室内に溜まり、機器が不完全燃焼を起こしたことによる。	業務用オープン	北沢産業(株)	KSG-6-12-3T-A 製造年:1996年4月	一般
2007年10月27日	神奈川	0	4	ガス事業者の協力会社から「新規開店準備中の業務用店舗で従業員が倒れ、病院へ搬送された」との通報を受け、ガス事業者が確認したところ、パンオープンの試運転の際、4名が気分が悪くなり、軽度の一酸化炭素中毒と診断されたことが確認された。排気ファンのヒューズが切れ動作しない状態で当該機器の試運転を行い、また、オープン納品時の調整不足により排気ガスに一酸化炭素が含まれていたことによるものと推定される。	業務用オープン (開放式パン焼き器)	(株)ワールド精機	FG-23T (2007年10月製)	一般
2007年9月16日	岩手	0	1	ガスグリラーで魚を焼いていたところ、消費者1名が途中で意識を失いその場に倒れた。1時間ほど経過した午前0時過ぎ、焦げた臭いにお気づいた家族が発見され病院へ搬送された。ガスメーター検針の際、消費者本人から事故の経緯を聞いた販売事業者が保安センターへ連絡し、保安センターが機器付近のCO濃度を測定したところ、CO濃度は1000ppmであった。その後メーカーが行った調査によると、原因は換気不足と、経年劣化による1次空気の不足により燃焼器が不完全燃焼を起こしたことによる。	上火式グリラー	(株)アサヒサンレッド	SG-35 (製造年不明)	LP
2007年9月9日	岡山	0	1	飲食店から「ガス臭がする」との通報があり、販売事業者が現地に出動したところ従業員1名が気分が悪いとしゃがんでいた。調査したところ、換気扇を作動させていないことと給気口もふさいで、多くの燃焼器を同時に使用していたことから換気不良により不完全燃焼したものと推定される。 (バルク貯槽 480kg×1)	食洗器、コンロ等8台	不明	不明	LP
2007年8月30日	東京	0	3	業務用厨房で食器洗浄機を使用中、従業員の気分が悪くなり消防により搬送された。調査の結果、機器内部の熱交換器のフィンに油や埃が付着しており給気不足で不完全燃焼を起こし、高濃度の一酸化炭素が発生したものと推定され、さらに、窓を閉め切り排気ダクトを運転せずに食器洗浄機を使用したことから一酸化炭素が充満し中毒に至ったものと推定。	業務用食器洗浄機	Kyodo	K-2R (1995年8月製)	一般
2007年8月24日	埼玉	0	4	従業員が業務用蒸し器を使用中、従業員4名が一酸化炭素中毒による体調不良を訴え病院に搬送された。LPガス販売事業者は、消防からの要請により、CO測定を実施し、業務用蒸し器からのCO発生を確認した。メーカーの調査結果では、技術上の基準(0.28%)を超えるCOの発生は確認されなかった。 給気不足(専用給気がない)、換気不良(換気扇の能力不足)、排気不良(排気口が上下逆向きに設置されていた)が原因で蒸し器のバーナーが不完全燃焼を起こし、COが発生したと推定される。 (バルク貯槽 298kg×1)	業務用蒸し器	①(株)荒畑製作所(蒸し器) ②(株)世田谷製作所(バーナー)	①蒸し器:SD-2S(2004年7月製) ②バーナー:TA-502HS(2004年4月、5月製)	LP
2007年8月7日	東京都	0	4	食器洗浄器を使用中、4名が気分が悪くなり軽度の一酸化炭素中毒と診断された。需要家は換気設備を稼働せず、窓を開けきって機器を使用していた。メーカー調査の結果、当該機器の給気ファンに埃が詰まり給気風量が不足したことにより不完全燃焼となり、高濃度の一酸化炭素が発生したものと推定される。	業務用食器洗浄機	(株)中西製作所	NAW-ミB1-CK (2001年製)	一般
2007年7月4日	長崎	0	2	従業員2名が業務用オープンを使用中に一酸化炭素中毒となり病院に搬送された。ガス事業者が確認したところ、当該機器の給気口が埃詰まりにより不完全燃焼して一酸化炭素が発生し、換気扇を作動せずに使用したことで室内に一酸化炭素が充満したものと推定される。	業務用オープン	(株)ワールド精機	FG-43T-D-FFP (1998年10月製)	一般

発生日	場所	人身被害		事故概要	機器分類	参考情報		事業形態
		死亡	中毒			製造(輸入)者	型式	
2007年6月8日	新潟	0	3	屋外イベント会場において臨時出店業者の従業員が営業終了後に翌日の仕込みを行っていたところ、頭痛及び吐き気を訴え救急搬送された。ガス販売事業者が器具を点検したところ炎の色が赤いこと、排気口にすすが付着していたことから不完全燃焼と判断した。作業場は上方への排気を考慮したブースであったが、大雨のため周囲をシートで閉め切って調理していた。 なお、販売事業者は、法定点検・調査、周知が不十分であった。	ゆで麺機	(株)マルゼン	MRLN-06B	LP
2007年3月8日	新潟	0	2	2名の調理員が食器洗浄機にて作業中倒れ、2名とも一酸化炭素中毒と診断された。当該機器は、LPガス仕様を設置時に供給ガス種13A用に改造して設置されていたが、内蔵ガバナの圧力調整がなされておらず、不完全燃焼により高濃度の一酸化炭素が発生する状況であり、また、事故当時、排気扇2台のうち、1台しか使用されていなかったことから運転停止中側のダクトから排気が逆流し一酸化炭素中毒に至ったものと推定される。	業務用食器洗浄機	(株)マルゼン	MDCF1-6ER (2004年7月製)	一般
2007年3月4日	長野	0	5	地下1階の菓子製造工場で、排気ダクトを停止したままオープンを使用したために、従業員5名がCO中毒となり病院へ搬送された。オープン使用時に必要な換気を行わなかったことでCOが充満したものと推定される。	業務用オープン	Salva	siroccu SR-12	LP
2007年1月11日	香川	0	9	給食調理室で食器洗浄機を使用した作業後すぐに排気ファンを停止させたところ、2階コンピュータ室にいた児童8名及び大人1名が吐き気やめまいを訴え病院へ搬送された。検査の結果はCO中毒であり、排気ダクト内に残留した排ガスが排気ダクトの隙間から漏れ出したものと推定される。	業務用食器洗浄機	(株)中西製作所	WX-23G4-A-R (2000年6月製)	LP
2006年10月21日	東京	0	9	カラオケ店の4階客室にいた11名のうち、9名が気分が悪くなり病院へ搬送された。客室にはガス機器は無く、3階厨房室の湯沸器を使用すると、その上部に位置する4階の当該客室でCOが検出された。なお、他の4階客室や3階厨房にいた従業員等には異常はなかった。事故の原因は、専用排気フードに接続されている湯沸器が不完全燃焼しており、その排気ガスが専用フードと排気ダクト接続部の隙間から天井内にあふれ、また排気ダクト外壁貫通部の屋外と屋内の位置ずれにより天井内にあふれた。さらに、天井裏4階床のコンクリートスラブにも亀裂があり、その隙間から4階客室に侵入したものの。	大型湯沸器(FE式)	(株)ノーリツ	GQ-2421WZ-HP (2000年2月製)	一般
2006年9月18日	千葉	0	3	ビル1階飲食店において、業務用グリルにて調理中に従業員3名の気分が悪くなり、病院にてCO中毒の診断を受けた。業務用グリルのバーナー混合管部に油を含んだ埃が付着し、一次空気の不足により不完全燃焼していた。事故当日、店舗の給気ファンが故障したため吸排気バランスがくずれ、燃焼排ガスが店舗内にあふれて、CO中毒に至ったものと推定される。	業務用グリル	(株)コメットカトウ	CGH-975FI (2003年8月製)	一般
2006年8月29日	兵庫	0	2	工場構内食堂の厨房で、従業員等2名が食器洗浄作業を行っていたところ頭痛を訴え、その後倒れたため、病院に搬送。フード換気扇を作動させずに、ガス湯沸器を使用して食器洗浄作業を実施したため不完全燃焼となりCO中毒が発生。	大型湯沸器(CF式)	パロマ工業(株)	PH-101M	LP
2006年8月17日	長野	0	2	中華饅頭販売店において、蒸し器使用中に換気扇の防火ダンパーが何らかの原因により作動し、換気不十分な状態で蒸し器を継続使用したことによるCO中毒。	業務用蒸し器	(株)荒畑製作所	SD-2S型 (2006年6月製)	一般
2006年7月21日	長崎	0	2	飲食店で調理中に気分が悪くなり、救急搬送。事故発生時は、ガスコンロ、ガスカマド等を使用していたが、器具の異常は特に確認されず、COの発生原因は不明。通常は稼働させている換気扇を止めていたことから、CO濃度が高まったものと推測。なお、事故発生前、ガスコンロの点火状況が悪かったためガス供給業者が点検を実施していた。警察の調査でもCOの発生元は特定されず。	①コンロ ②ゆで麺用ガスカマド	不明	不明	LP

発生日	場所	人身被害		事故概要	機器分類	参考情報		事業形態
		死亡	中毒			製造(輸入)者	型式	
2006年7月17日	東京	1	2	日本料理店に勤務する男性が店の中で倒れているのを男性の母親が見つけた。119番通報した。母親とその後店に来た男性の父親も気分が悪くなり救急車で病院へ搬送されCO中毒と診断された。現場検証において、①被害者が大型湯沸器を換気扇不動作の状態で使用していたこと、②大型湯沸器の熱交換器に詰まりがあり、不完全燃焼により高濃度のCOが発生していることが確認された。なお、大型湯沸器の排気部がフード内に設置されており、換気扇を使用した状態では排ガスが適正に屋外に排気される状態であったことも確認されている。	大型湯沸器(CF式)	パロマ工業(株)	PH-101M (1996年7月製)	一般
2006年6月21日	東京	0	8	パン屋において、換気扇を動作させずパンオーブンを1時間程度使用していたため、排気ガスが室内に充満し一酸化炭素中毒症状となったもの。パンオーブンは経年による埃詰りがあり燃焼状態が悪化していた。通常、換気扇は24時間作動させていたが、前日の営業終了後に新人従業員が換気扇のスイッチを切ったため、翌日出社した別の従業員は作動しているものと思込み、作動確認を怠ったものと推定される。	業務用パン焼き器	北沢産業(株)	KSG-6-12-3Y-A (1999年8月製)	一般
2006年5月7日	兵庫	0	1	飲食店店長から「厨房内で警報器鳴動」の連絡を受け調査したところ、フード式換気扇を使用しておらず、業務用湯煎器からCO 0.1%を検出した。その他のガス機器、警報器とも異常なしを確認し、湯煎器の使用禁止措置を実施したが、翌朝、「厨房で働いていて気分が悪くなった」との通報を受け再度確認したところ、異常なしを確認(使用禁止機器は使用禁止維持を確認。)。労働基準監督署の見解として、燃焼用空気の不足(埃詰まり)により不完全燃焼していた業務用ガス湯煎器を、換気扇を動作させず(事故当時停電があり、復帰後再始動。)に使用したため、使用禁止後も滞留していたCO中毒と判断された。	業務用ガス湯煎器	(株)コメットカウ	CP-3575Y13A (1997年10月製)	一般
2006年2月16日	長崎	0	4	ケーキ工場において、屋外式大型湯沸器(RF型)を使用中、従業員4名のが気分が悪くなり病院へ搬送され、CO中毒と診断された。原因は、設備業者(電気工事業者)が、強制排気式(FE型)大型湯沸器を撤去し、同一場所の屋内厨房に屋外式大型湯沸器(RF型)を設置。当該湯沸器はファンが目づまりにより不完全燃焼を起こし、COを含んだ排ガスが室内に充満しCO中毒に至ったもの。	大型湯沸器(FE式)	(株)ノーリツ	GQ-1610WE (1995年12月製)	一般
2005年12月31日	熊本	0	3	従業員が厨房兼作業場で作業中に気分が悪くなり、病院に搬送。血液検査で、CO中毒と推定。作業時は瞬間湯沸器を使用していたが換気扇を動作させず、換気不良により不完全燃焼と推定。供給開始時は、屋外式湯沸器が設置されていた場所は十分な開口部が確保されていたが、その後消費者によって壁が設置され、屋内設置と同様な状況となっていた。定期消費設備調査が実施されておらず販売事業者は、このような状況を把握していなかった。	大型湯沸器(屋外式)	パロマ工業(株)	PH-24CH	LP
2005年12月31日	長野	0	1	そば茹で器で調理を行っていたところ、CO中毒と見られる頭痛のため病院へ搬送。そば茹で器の排気口にステンレスホール(おけ)を置いて塞いでいたため、バーナーが不完全燃焼を起こしたため、CO中毒になったと推定。	麺茹で器	(株)マルゼン	MGS-STR	LP
2005年12月29日	長野	0	1	食器洗浄機を使用中、従業員1名がCO中毒により病院に搬送。食器洗浄機の高スプースターにすずが附着していたことにより、燃焼不良から不完全燃焼を起こしたもの。なお、12月26日に食器洗浄機の高スプースターが燃焼不良のため修理依頼があり、販売事業者からメーカーに修理を依頼、翌日に行った。その際、メーカーから内部清掃を行うよう指導があった。さらに28日に販売事業者に再度修理依頼があり燃焼状態を目視で確認していた。	食器洗浄機	石川島播磨重工業(株)	GB-48A形	LP

発生日	場所	人身被害		事故概要	機器分類	参考情報		事業形態
		死亡	中毒			製造(輸入)者	型式	
2005年12月16日	熊本	0	3	9時から調理作業で湯沸器を使用。軽い頭痛の自覚症状はあったがそのまま作業を継続。14時20分頃不調を訴え、病院でCO中毒と診断された。事故当日は寒気が強かったため厨房を閉め切り、換気扇を作動させず、石油ストーブも併用していたことから換気不良により不完全燃焼したものと推定される。	大型湯沸器(CF式)	松下電器産業(株)	GW-104	LP
2005年12月8日	大分	0	3	厨房で夕食の後片付け中に作業員3人が倒れ、病院に搬送。血液中のCOHb濃度が高かったことからCO中毒と診断された。事故後の警察の調査で食器洗浄機の使用時に換気扇を作動させなかったため、換気不良により不完全燃焼を起こしたものと推定。	食器洗浄機	(株)中西製作所	WGD-M13F4A-LH	LP
2005年9月12日	新潟	0	2	労働基準監督署から労災事故としてCO中毒の情報がガス事業者に入ったため調査した結果、事故当日9時40分頃、需要家(パン屋)でパン焼き中に店の主人と従業員の2人が意識を失い倒れているのを出勤してきた従業員が発見し、病院へ搬送され入院したことが判明した。原因は、パン焼き器の不完全燃焼によるもので、当該パン焼き器はLPG用器具を都市ガス用(13A)に改造したものであり、燃焼時にCOが発生する調整不良の器具で、換気不十分な状態で使用したためCO中毒に至ったものと推定される。	業務用パン焼き器	(株)ワールド精機	WG21TK (1989年10月製) (※2005年6月にLPガス用を13Aに改造)	一般
2005年7月4日	静岡	0	2	厨房で業務中に従業員2名がCO中毒のため倒れた。事故時は窓を閉め、換気扇も作動させずに麺茹で器を使用していたため換気不良で不完全燃焼を起こしたと推定。消防の調査で麺茹で器の排気口に多量のすすが付着し、熱交換器入口が目詰まりしていることが確認。	麺茹で器	(株)マルゼン	MRF-056B	LP
2005年6月24日	東京	0	7	消防から「焼肉店でCO中毒と思われる負傷者多数発生」との通報を受け緊急出動したところ、厨房内で調理していた従業員2名と客5名が相次いで気分が悪くなり病院へ搬送されていた。現場検証の結果は、当該建物屋上の排気ファンを停止した状態で厨房内の排気ファンを運転すると、厨房内の排気が客席の排気管に逆流することが判明した。また、厨房に設置されたCF式給湯器の排気から高濃度のCOが検出されたことから、CF式給湯器の排気によりCO中毒になったものと推定される。	大型湯沸器(CF式)	パロマ工業(株)	PH-81M (2000年4月製)	一般
2005年5月29日	兵庫	0	2	弁当販売店から「ガス使用中気分が悪くなった。」で受付、出勤した。当時は、店内の入口を閉止し、換気扇を稼働させずにエアコンを使用して炊飯器2台同時使用中に店長と従業員が気分が悪くなり、病院で治療を受けた。原因は、換気扇を使用せずに不完全燃焼している炊飯器を使用したことによるが、当該炊飯器はノズルが目詰まりしていたことから不完全燃焼していた。	炊飯器	リンナイ(株)	炊飯器HK-A21	一般
2005年2月20日	大阪	0	2	一般業務用建物(パチンコ店)の2階の社員食堂で洗い物をするため給湯器を使用中に従業員2名が倒れ病院に搬送された。原因は、不完全燃焼していた給湯器のCOを含んだ排気が、排気フードの屋外に設置された防鳥網が油等で目詰まりしていたことにより室内に流入したことによるものと推定される。	大型湯沸器(CF式)	パロマ工業(株)	PH-101M	一般
2005年2月18日	北海道	0	3	そばゆで釜で調理中、従業員3人の具合が悪くなり、病院に搬送。診断の結果、CO中毒と診断。そばゆで釜の排気筒トップに燃焼効率が高まると思い金属製の板(菓子箱の蓋)を斜めに立てかけ、使用中に何らかの振動によりこの金属板が排気筒を完全に塞いだため排気不良から不完全燃焼となった。	そばゆで釜	(株)マルゼン	MGS-STL	LP